

新長崎県植物誌ノート (長崎県植物誌補遺) 4

中西 弘 樹¹⁾

Additional Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture 4

Hiroki NAKANISHI¹⁾

はじめに

本稿は2015年に出版した「長崎県植物誌」(中西 2015)の目録の補遺を中西(2018)に続いて記載するのが目的である。すなわち、分類の見直しによって種が変更されたもの、記載が誤ったものあるいはもれたもの、その後発見された県新産の植物と希産種の産地追加を記録しておきたい。記載の形式は地名の後に、国土地理院5万分の1地形図の図幅名および4分割の位置、3次メッシュ地図番号、海拔、採集または確認年月日、標本番号の順に記す。情報をいただいた江頭一政氏、千々布義郎氏、蓑田清隆氏にお礼を申し上げます。

産地の誤りと記載もれのもの

5. オオキツネノカミソリ *Lycoris sanguinea* Maxim. var. *kiushiana* (Makino) Makino ex Akasawa (ヒガンバナ科)

雲仙山系の産地は、すでに中西(2006)に記載されているが、中西(2015)ではあげられていなかった。多良山系に比べると少なく、池の原と絹笠山に見られる。

県内分布：多良山系、長崎、雲仙山系

6. ハマスゲ *Cyperus rotundus* L. var. *rotundus* (カヤツリグサ科)

各地に少ないと記載したが、各地の空き地などにふつうに見られる。小穂の長さはふつう2cmほどであるが、市街地にはまれに4~5cmになるものがある。

7. コアゼテンツキ *Fimbristylis aestivalis* (Retz.) Vahl (カヤツリグサ科)

各地にふつうと記載したが、極めてまれで、蓑田(2018)によって長崎市から記録され、筆者も自生地を確認した。生育地は駐車場にも使われる空き地である。本種は人為的な立地に生育しているようで、佐賀

県では県民の森の駐車場の敷石の間で採集している。本種の近縁種でアゼテンツキは南島原市で確認しただけであるが、メアゼテンツキが一番多く、県内の溜池にややふつうに見られる。

県新産の植物

種の変更

3. サツママアザミ *Cirsium austrokiusianum* Kitam.

これまでマアザミとしていたもので、異名でキセルアザミと言われるように、頭花が下向くが、長崎県のは上向きになるので、疑問に思っていた。マアザミは九州には分布しておらず、サツママアザミは九州の固有種である(国立科学博物館HP)。

県新産の在来種

26. ケハンショウヅル *Clematis japonica* Thunb. var. *villosula* (Ohwi) Tamura ex Yonek. (キンポウゲ科) (図1)



図1. ケハンショウヅル

諫早市高来町五か原岳~中岳〔諫早3, 4930-30-56〕, 1000m, Oct. 22. 1995, (No. 15354); 雲仙市小浜町雲仙山系仁田峠~アザミ谷〔島原3, 4930-12-13〕, 1100m, May 24. 2016

¹⁾ 〒851-2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野2丁目29-4 亜熱帯植物研究所

標本はすでに多良山系で採集していたが、江頭一政氏に指摘されて中西（2015）には記載していないことがわかった。ケハンショウヅルは海拔1000m付近の温帯林の林縁に生育しているが、タカネハンショウヅル *C. lasiandra* は島原半島の300~500m ぐらいの低地で確認しているだけである。なお、トリガタハンショウヅル *C. tosaensis* は中西（2015）に載っているが、外山（1080）を引用したもので、筆者は確認していない。

27. ハママンネングサ *Sedum formosanum* N.E. Br. (ベンケイソウ科) (図2)



図2. ハママンネングサ

長崎市協岬町 [野母崎②-4, 4829-66-92], 3m, June 14, 2018, (No. 24455)

本種について外山（1980）は男女群島と小浜町に記録しているが、男女群島のものはダンジョマンネングサとして別種とされた。小浜町のものについては、その後誰も発見しておらず、現状不明のままである。飯盛町からも報告されたが、これは大きな葉をもつナガサキマンネングサであった。

したがって、ハママンネングサは長崎県には産しないと考えられていた。しかし、本種を上記の地に生育していることを発見した。生育地は海岸の崖地の上部で、海岸林の縁にも生育している。5月に花が咲き、その後は枯死するため、夏から秋には実生個体を除くと、見られない。したがって、本種を探すには春でないと発見しにくい。葉の形はナガサキマンネングサの幅の広い個体と似ているが、本種は茎が三又分岐することが一番の特徴であり、他種との区別点である。

県新産の外来種

28. キクザキリュウキンカ *Ranunculus ficaria* L. (キンボウゲ科)

長崎市琴海戸根原町赤水 [大村4, 4929-26-80], 280m, Mar. 24, 2018, (No. 24366)

ヨーロッパ原産の多年草で、園芸化もされているの

で、それが野生化したものと思われる。リュウキンカに似ていて、光沢のある黄色の花を咲かせ、遠くからでもよく目立つ。上記の地の空き地に群生していた。尚、江頭一政様は諫早市長田町で発見されている。

29. ベニバナツメクサ *Trifolium incarnatum* L. (マメ科) (図3)



図3. ベニバナツメクサ

諫早市高来町神津倉 [諫早2, 4930-21-91], 80m, May 3, 2018, (No. 24412)

ヨーロッパから西アジアの原産で、観賞用に導入されたものが各地で逸出帰化している。花は濃赤色で、花穂は2cmほどになり美しい。上記の地の住宅街と畑地の間に野生化していた。

30. ナガボミズアオイ *Pontederia cordata* L. (ミズアオイ科) (図4)



図4. ナガボミズアオイ

大村市坂口町池田堤 [大村1, 4929-37-17], 10m, July 1, 2018, (No. 24468)

北アメリカ東部原産の外来水草で、上記の地は、田中慶太氏によれば10年以上前から生育していたと言う。繁殖力が強く、高さは1m以上にもなり群生するので、在来の水草の生育に悪い影響を与えるものと思われる。

31. シマトネリコ (タイワントネリコ) *Fraxinus griffithii* C. B. Clarke (モクセイ科)

長崎市芒塚町[長崎2, 4929-07-94], 170m, Jan. 20. 2002, (No. 24631); 同市古賀町富士団地近く[長崎1, 4929-17-66], 50m, Nov. 14. 2018, (No. 24633)

琉球列島以南の東南アジア, インドなどに分布する常緑高木で, 寒さに強く, 近年庭木や街路樹として各地に植えられるようになった. 日本本土では低木や亜高木として植栽されている. 種子は風散布で, 周辺地域の放棄畑や河川, 道路の側溝などに野生化している. 最初2002年に長崎市芒塚町で発見したが, 今では長崎市以外の各地にも野生化している.

希少植物の新産地

18. ヒロハノコギリシダ *Diplazium dilatatum* Blume var. *dilatatum* (イワデングダ科) (図5)



図5. ヒロハノコギリシダ

西海市西彼町八木原郷[佐世保南部2, 4929-46-18], 117m, Jun. 27. 2018, (No. 24359)

本種は亜熱帯性のシダで, 県内では五島市, 長崎市とやや離れて西海市西海町に生育している. そのほぼ同じ緯度の西彼町の谷にも群生していることを発見した. 九州における分布の北限自生地である.

19. ドロイ *Juncus gracillimus* (Buchenau) V. I. Krecz. et Gontsch. (イクサ科)

南松浦郡新上五島町神ノ浦郷神ノ浦南[有川3, 4929-30-07], 1m, Aug. 27. 2018, (No. 24476)

北方系の塩生植物で, 九州では佐賀県と長崎県に知られ, 長崎県では佐世保市, 西海市, 対馬市, 五島市に生育し, 福江島が分布の南限自生地である. 新上五島町では初めての発見である. 九州では長崎県に最も

生育地が多い.

20. キシュウナキリスゲ *Carex nachiana* Ohwi (カヤツリグサ科)

五島市増田町雨通宿[福江4, 4928-86-32], 45m, Oct. 19. 2018, (No. 24601); 同市龍淵町[福江4, 4928-06-32], 85m, Oct. 20. 2018, (No. 24607); 同市吉田町猪掛旧道[福江4, 4928-06-23], 104m, Oct. 20. 2018, (No. 24622)

これまで長崎市と西海市で採集していたが, 五島市福江島には比較的多いことがわかった. 生育立地は, ナキリスゲやコゴメナキリと同じで, 林縁部に生育する.

21. ツルナシコアゼガヤツリ *Cyperus haspan* L. var. *microhaspan* Makino (カヤツリグサ科)

西海市西彼町白似田郷中部[大村3, 4929-36-62], 30m, Oct. 8. 2018, (No. 24562); 五島市高田町上溜池[福江4, 4928-06-03], 90m, Oct. 20. 2018, (No. 24619)

コアゼガヤツリの変種で, 根茎が伸長せず, 株が叢生する. 各地に分布しているものと思われる.

22. ノリウツギ *Hydrangea paniculata* Siebold (アジサイ科)

長崎市長浦町長浦岳北[大村4, 4929-26-90], 480m, Aug. 25. 2018, (No. 24476)

長崎県では本種は雲仙山系を中心とした島原半島には多いが, これまで他の地域では見られなかった. 西彼半島の中央部の谷部に開花した個体を1株確認した.

引用文献

- 国立科学博物館 HP. 日本のアザミ. <https://kahaku.go.jp/research/db/botany/azami/detail.html>
- 蓑田清隆 2018. コアゼテンツキを初確認. 長崎県植物研究会ニュースレター No. 2: 8-9.
- 中西弘樹 2006. 雲仙岳の種子植物. 雲仙岳の生物(長崎県生物学会編) pp. 37-48., 長崎新聞社, 長崎.
- 中西弘樹 2015. 長崎県植物誌. 388pp., 長崎新聞社, 長崎.
- 中西弘樹 2018. 新長崎県植物誌ノート(長崎県植物補遺) 3. 長崎県生物学会誌82: 4-8.